

平成20年 新年賀詞交歓会を開催 内 発 協

竹野会長「公益性の高い業務に注力」

内発協は1月10日(木)、東京・九段下のホテルグランドパレスで「平成20年 新年賀詞交歓会」を開催しました。

冒頭、開会挨拶に立った竹野正二会長は「当協会の業務は非常時の発電設備がいかにかその責務を果たせるかを目指しています。公益性の高い業務だと思っています。引き続き注力して取り組んでいきます」と述べました。続いて、来賓挨拶として、原子力安全・保安院 電力安全課の櫻田道夫課長より祝辞をいただきました。

挨拶の後、当協会副会長の福井徹・ダイハツディーゼル株式会社常務取締役が「時代のニーズに対応して干支のねずみのようにきびきびコツコツ仕事に邁進していこう」と述べて乾杯の音頭で懇親へ移り、平成20年のスタートを切りました。

賀詞交歓会には会員会社、関係省庁、関係団体などから231名が参加しました。竹野正二会長、櫻田道夫課長の挨拶要旨は次のとおり。



福井 徹・副会長（ダイハツディーゼル株常務取締役）の発声で乾杯

平成20年 賀詞交歓会 あいさつ要旨

社団法人日本内燃力発電設備協会
竹野 正二 会長

新年、明けましておめでとうございます。
本日は、当協会の賀詞交歓会に多数の方々がお集



あいさつする竹野正二会長

まりいただきまして有り難うございます。

来賓の皆様には、大変お忙しい中、原子力安全・保安院 電力安全課長の桜田道夫様、消防庁予防課専門官の渡辺剛英様にご出席いただき有り難うございます。

本年度は、平成20年代の幕開けの年でもあり、また、干支のはじめの「子」の年であり、新しい気分で新年を迎えられたことと思います。しかし、サブプライムローンと原油高の影響により、米国の景気後退が予想されており、米国の株価の急落とこれに伴うわが国の株価の急落という波乱に富んだ幕開けになりました。特に原油の高騰は、コージェネ設備の普及の足を引っ張り、皆様の会社の業績にも影響するのではないかと懸念しております。

当協会の業務につきましては、皆様のご協力により、本年度も前年度並みに推移するものと思われま

す。製品認証事業におきましては、昨年11月に、非常用予備発電設備の総務大臣から登録認証機関としての更新を受けました。認証件数の実績については、現在までのところ昨年を若干上回っています。

自家用発電設備に係わる専門技術者事業におきましては、可搬形発電設備の受験者数が、大幅に増加しています。これは経済産業省の通達の変更もあり、可搬形発電設備の使用者である建設業関係者が建設現場の安全確保に対する意識の高揚が影響したものと思っています。

(5面につづく)

